

心に響く語りと、名曲でつなぐ感動の物語

～よみ うたい～

ビルマの豎琴

キャスト



〈朗読・歌・豎琴演奏〉
田中 あつ子



〈歌 ソプラノ〉
高野 久美子



〈ピアノ〉
浜野 千津

演奏曲目 埴生（はにゆう）の宿、おぼろ月夜、アベ・マリアほか

2021 **8** / **15** sun

14:00 ~ 15:30 (13:30開場)

笠岡市民会館（笠岡市六番町 1-10）

- ・入場無料
- ・手話通訳があります。
- ・補聴器（Tモード対応）で明瞭に聞こえるヒアリングループ席があります。
- ・新型コロナウイルス感染予防のため入場時に検温、手指消毒、マスク着用の確認をします。

※新型コロナウイルスの感染状況により、延期または中止する場合がありますのでご了承ください

主催 笠岡市非核平和都市宣言啓発実行委員会
問合せ 笠岡市人権推進課

TEL (0865) 69-2120

E-mail jinkensuishin@city.kasaoka.lg.jp



あらすじ

1945年7月ビルマにいたある部隊は、水島上等兵の豎琴を伴奏に歌い励ましあっていた。

戦況が悪化する中、降伏しない他の部隊の説得のため、水島は一人でその部隊の所へ行きましたが、何日経っても戻ってきません。

数か月後、隊長は肩に青いインコを乗せた水島によく似たビルマの僧侶を見かけますが、すぐに逃げ去ってしまいます。隊員たちは、あの僧侶が水島ではないかと思い、彼に思いを届けようと毎日合唱しました。

出発の前日、ついに僧侶が姿を現しました。隊員たちが「埴生の宿」を合唱すると、僧侶は豎琴を合唱に合わせてかき鳴らします。僧侶はやはり水島上等兵だったのです。

隊員たちは「オーイ、水島、一緒に日本に帰ろう」と必死に呼びかけますが、僧侶は無言で「仰げば尊し」を弾き、森の中へ去ってしまいました。

出発の日、帰国の途につく隊員たちのもとに1羽のインコが手紙を運んできました。手紙は水島からで、ビルマで戦死した日本兵を弔うためにビルマに残ることを決意し僧侶になったことや仲間への感謝の気持ちがこめられていたのです。

〈公演を見た人の感想〉

- 歌や楽器の音色が人々の心を動かす。そんな場面に涙が止まりませんでした。歌が人の心を柔らかくする。文化の力で争いのない世界ができないものなのでしょうか。
- 映画を見たことはありましたが、朗読だとまた違う感動があり、一層深い考慮と理解を得ることができました。原作を読み直したくなりました。